The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	はじめに
Author(s)	
Citation	OUFCブックレット. 2016, 9
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/55520
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

はじめに

ワークショップ「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』データベースの構築・公開に向けて」は，2015 年 9 月 19 日(土)，大阪大学豊中キャンパスの待兼山会館会議室で開催され，5 人の報告の後，討論が行われた。21 世紀課題群と中国（大阪大学未来研究イニシアティブ），堤科研（東洋学学術資産としての石濵文庫の基礎的研究）の主催，NIHU 現代中国研究・東洋文庫拠点（政治史資料研究班）の共催による。開催にあたって掲げた主旨は，以下のとおりである。

> 大阪大学総合図書館の貴重コレクション「石濵文庫」には，1940 年代前半に満洲国で発行されたモンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』が世界で唯一，ほぼ完全な形で所蔵されている。当時の文化・民族政策とメディアの関係，現在にいたる民族意識を知るための重要な資料として 1990 年代から再び注目されてきた。昨年(2014 年)12 月には，研究セミナー「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』のデジタル化と公開の可能性」を開催し，この資料をめぐる研究の現状を知り，国際的な学術ネットワーク形成の可能性をさぐった。今回のワークショップでは，昨年の研究セミナーの成果の上に，紙面画像，多言語による目次データなどを統合したデータベース構築に向けた作業を報告する。データベースの構築に何が必要か，また公開によって今後どのような研究の展望が拓けるかを考えてみたい。

本ブックレットは，当日の報告に基づく論考 5 篇と討論内容の書き起こし，および資料篇からなる。今回は，『フフ・トグ(青旗)』の一部分（1941 年 5 月(第 8 号～第 11 号)の 1 箇月分）をサンプルとして，データベースを構成する各部分を試作し，具体的なあり方・構築の方法を検討した。資料Ⅰは『フフ・トグ(青旗)』の本紙，資料ⅡとⅣは都馬バイカル氏を中心とした『青旗』研究会による記事索引（モンゴル語・ローマ字転写・日本語訳）と専門用語，資料Ⅲはナランゲレル氏（中国・内モンゴル大学）による記事細目，資料Ⅴは田中仁氏による国際情勢の日録記事のそれぞれ 1941 年 5 月部分である。

昨年(2014 年)12 月開催の前回の研究セミナーをまとめたブックレット『戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』のデジタル化と公開の可能性：東洋文庫政治史資料研究班・研究セミナーの記録』（OUFC BOOKLET vol.7）の「はじめに」で，「「デジタル化と公開」は，「可能性」から実現にむけて第一歩を記したばかりである」と述べた。本ブックレットは，第二歩へと進んだ作業の記録といえる。さらなる歩みに向けては，関係者の研鑽・努

力が必要なことはいうまでもない。末筆ながら，今後とも皆さまからのご助言・ご協力をお願い申し上げたい。　（堤一昭）